

一瞬のきらめきを永遠に 釣り好きが集う剥製工房



魚類剥製工房
東海釣魚堂 株式会社

〒464-0016
愛知県名古屋市中千種区希望ヶ丘2-2-19
TEL 052-740-5841 / FAX 052-740-5842
URL <http://www.choogyo.com>

Company data

代表取締役社長

丹羽 理

東海大学海洋学部水産学科を卒業。在学中は釣り部に在籍する。卒業後はIT業界を経て、剥製作成を手がける東海釣魚堂(株)を設立。依頼者のイメージに即した作品づくりを心がけている。

ズにするのか、それはお客さんによっても異なりますね。

水野 お客様の思い出を形にする、やりがいの大きい仕事ですよ。

丹羽 はい。以前に小学6年生の子どもさんがイワナを持って「お年玉でやってほしい」と訪ねてきました。金銭的には足りませんでした、それ以上を頂くことはできませんでした(笑)。依頼のある魚は、サイズの大小、珍しいかどうかは関係ありません。その方にとっての思い出入れ——これに尽きると思います。

水野 中学時代からの趣味が仕事になっているからか、とても楽しそうに話されますね(笑)。

丹羽 実際に楽しいですから(笑)。これからも技術向上に努めながら、多くの方々に剥製の魅力を知って頂きたいですね。魚の剥製と聞くと干物のような姿をイメージする方が多いのですが、私が手がけた実物を見て頂くことで、本当はリアルなものなんだということを広く伝えていけたらと思います。



水野 釣魚の剥製作成ビジネスとは面白いですね。私は釣りが大好きなのでとても興味があります。

丹羽 思い出に残したい魚を、インテリア剥製としてリアルに再現できるのが特徴です。最新技術と匠の技を用いたクオリティの高さにも自信がありますよ。

水野 先ほど拝見しましたが本当に完成度が高いですね。以前はIT業界に勤めておられたそうですが、いつ頃から剥製づくりをされていたのですか？

丹羽 剥製をつくるのは中学時代からの趣味でした。年月とともに新素材や新技術が出てきましたが、作成過程の基本は変わっていません。むしろ魚種によっては昔の技術を使ったほうがより良い場合もあるので、剥製づくりの新旧を知っていることは大きな強みだと思います。

水野 生きていたものを作品に仕立てあげることの難しさもあると思います。

丹羽 特に神経を使うのは着色ですね。持ち込まれたときの色は、釣り上げたときの色とは異なります。お客さんが求めているのは釣り上げたときのイメージ、跳ねまわっていたときの色なんですよ。

水野 なるほど。しかし相手の記憶のなかの色を再現できるものなんですか？

丹羽 まずはお客さんに、釣り上げたときの写真があるかどうかを尋ねます。もしその用意がないというのであればグラビアを見せて、最もイメージに近い色を指し示してもらいます。作成途中に2度ほどお客さんとやりとりするなかで、着色だけでなくポージングも決めていきます。躍動感を出すために反らせるのか、それとも実寸を重視して真っ直ぐなポー



▲ 丹羽社長が手がけた釣魚の剥製。思い出に残したい魚を、釣り上げたときの状態で色・形も含めてリアルに再現するのが特長だ

Guest Comment

水野 裕子(タレント)

丹羽社長が好きなおことに携わり楽しそうに話して下さるのと同じように、釣り好きの私もとても有意義な時間を過ごしました。仕事を通じてお客様と仲良くなり、釣り仲間が増えていけばいいので、そうした人とのつながりも含めて本当に素敵な仕事だと思いました。

